




**OpenManage Integration for VMware vCenter
vSphere Client バージョン 3.0 用クイックインストール
ガイド**



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます。 この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell[®]、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

June 2015

Rev. A00

目次

1 Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール.....	4
インストールについて.....	4
作業を開始する前に.....	4
2.x から 3.0 への移行のための移行パス.....	10
OpenManage Ingetration Plug-In の 2.x バージョンから現在のバージョンへのアップグレード.....	11
旧バージョンのプラグインが登録解除されている場合の OpenManage Integration for VMware vCenter の復元.....	11
2 OpenManage Integration for VMware vCenter の設定	12
設定ウィザードようこそページ.....	12
新規接続プロファイルの作成ウィザード.....	12
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	13
プロキシサーバーの設定ウィザード.....	14
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	14
保証取得ジョブウィザードの実行.....	15
展開資格情報の設定ウィザード.....	15
デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード.....	16
OMSA リンクの有効化ウィザード.....	16
Dell iDRAC Auto-Discovery の設定	17
NFS 共有の設定.....	17
3 Licensing in OpenManage Integration for VMware vCenter.....	19
License Types.....	19
Evaluation License Standard License.....	19
アップロード済みライセンスに関する情報の表示.....	19
Uploading License.....	20
Options After Uploading Licenses.....	20
License file for new purchases.....	20
Stacking licenses.....	20
Expired Licenses.....	21
Replacement of Licenses	21
Enforcement.....	21
Appliance Updates.....	21
Evaluation Licenses.....	21
Adding Hosts to Connection Profiles.....	21
4 その他の構成情報.....	22

Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール

インストールについて

このガイドは、OpenManage Integration for VMware vCenter (OMIVV) のインストールおよび設定の手順について説明しています。インストールが完了したら、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアのアップデート、展開とプロビジョン、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報に関して『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）（dell.com/support/manuals）を参照してください。

作業を開始する前に

OMIVV のインストールを開始する前に、次の情報が必要です。

- OMIVV 仮想アプライアンスに割り当てる TCP/IP アドレス情報。
- OMIVV が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。これは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OMIVV の役割についての詳細は、dell.com/support/manuals の『*OpenManage Integration for VMware vCenter Configuration User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter の設定ユーザーズガイド）の章を参照してください。
- ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory の root パスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名とパスワード。
- vCenter サーバーおよび vSphere Client が利用可能であることを確認します。
- OMIVV OVF ファイルの場所。
- VMware vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たしている必要があります。また、OMIVV の URL が Internet Explorer ブラウザの信頼済みサイトに属している必要があります。



メモ:


Adobe Flash Player 10 またはそれ以降を vSphere Client システムにインストールします。Windows Server 2012 以降では、Internet Explorer ブラウザの Flash Player を有効にするには、**デスクトップエクスペリエンス機能** を有効にする必要があります。ESXi ホストに OMIVV（仮想アプライアンス）をインストールします。



メモ: 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。



メモ: OpenManage は、ESXi 5.5 以降に導入されたときに、VMware ツールを **実行中 (旧式)** として表示します。必要に応じて、アプライアンスの導入が正常に行われた後、またはいつでも VMware ツールをアップグレードできます。

 **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

ハードウェア要件

OMIVV のハードウェア要件は次のとおりです。

- サポートされているサーバーと BIOS の最小要件
- サポートされている iDRAC バージョン（導入および管理の両方）
- OMSA は旧式のサーバーと ESXi バージョンのサポートに対応（導入と管理の両方）しています。詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス）を参照してください。

ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

- vSphere Client システムに Adobe Flash Player 10 またはそれ以降をインストールします。

具体的なソフトウェア要件については、dell.com/support/manuals にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス）を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

ポート	コンソール
443 (https) および 80 (http)	管理コンソール
4433 (https)	自動検出とハンドシェイク
162 および 11620	SNMP トラップリスナ
2049、4001、4002、4003、4004	NFS 共有

インストールと設定の概要

以下は OMIVV インストール手順の概要です。実際にインストールを開始するには、「[vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)」を参照してください。

インストールの概要

1. OMIVV をインストールします。
 - a. vCenter Server が稼働していることを確認してください。
 - b. vSphere Client を使用して、OMIVV を含む Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
 - c. ライセンスファイルをアップロードします。
 - d. 管理コンソールを使って、OMIVV を vCenter サーバーに登録します。

 **メモ:** FQDN（完全修飾ドメイン名）を使用した登録は必須ではありませんが、強くお勧めします。IP（インターネットプロトコル）と FQDN の両方ベースの登録では、vCenter のホスト名を DNS サーバーで正しく解決する必要があります。

2. 設定ウィザードの手順を完了します。
3. Dell イベントを有効にし、設定ページでイベントフィルタオプションをセットアップする

4. ファームウェアアップデートを有効にして、ファームウェアのアップデートをダウンロードし、該当するシステムで使用できるようにする
5. Dell iDRAC のユーザー名およびパスワードを設定します。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入

この手順は、デルのウェブサイトからジップファイルをダウンロードしていることを前提としています。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入


1. OMIVV 仮想ディスクを含むファイルを解凍し、**setup.exe** を実行します。
2. Setup.exe ファイルをダブルクリックして EULA に同意し、OVF ファイルを解凍して取得します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー/移動します。
4. VMware vSphere クライアントを開始します。
5. VMware vSphere Client から、**ファイル** → **OVF テンプレートの展開** を選択します。
6. ソース ウィンドウで、**参照** ボタンを使用して OVF パッケージの場所を確認します。この場所はローカルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD、またはインターネットからのいずれかです。OMIVV ファイルのサイズは約 1.5 GB です。



メモ: OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルでホストすることをお勧めします。

7. **次へ** をクリックします。
8. **OVF テンプレートの詳細** ウィンドウで、表示される情報を確認します。
9. **次へ** をクリックします。
10. **名前と場所** ウィンドウで次の手順を実行します。
 - a. **名前** テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
 - b. **インベントリの場所** リストで、テンプレートを保存する場所を選択します。
11. **Next** (次へ) をクリックします。
12. vCenter の設定に応じて、次のオプションの 1 つが表示されます。
 - リソースプールが設定されている場合 — リソースプールのページで、OMIVV の展開先となる仮想サーバーのプールを選択してください。
 - リソースプールが設定されていない場合 — ホスト/クラスタのページで、OMIVV の展開先となるホストまたはクラスタを選択してください。
13. ホストで 1 つ以上のデータストアが使用可能な場合、データストアのページが表示されます。OMIVV ファイルの保存先の場所を選択し、**次へ** をクリックします。
14. **ディスクの形式** ウィンドウで、仮想ディスクを保存する形式を選択します。
 - a. **シックプロビジョン Lazy Zeroed**
Lazy-zeroed のシックディスクは作成された時に割り当てられたすべてのディスク容量がありますが、各ブロックは最初の書き込みでのみゼロが書き込まれます。その結果、作成は短時間で済みますが、最初に書き込まれるブロックのパフォーマンスは遅くなります。それに続く書き込みは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。
 - b. **シックプロビジョン Eager Zeroed [推奨]**
Eager-zeroed シックディスクでは、作成と同時にすべての容量が割り当てられてゼロが書き込まれます。そのため、ディスク作成の時間が増えますが、各ブロックに対する最初の書き込みでさえも最高のパフォーマンスが得られます。
 - c. **シンプロビジョン [推奨されません]**
シンプロビジョンの仮想ディスクに必要な容量は、作成の時ではなく最初の書き込みの時に割り当てられてゼロが書き込まれます。何も書かれていないファイルブロックに最初に書き込むときの

I/O コストは大きく (Lazy-zeroed のシックディスクと同様) になりますが、その後のシンプロビジョ
ンディスクでの書き込みでは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。

15. **次へ** をクリックします。
16. **宛先ネットワーク** の下で、アプライアンスに適切なネットワークを選択して、**次へ** をクリックします。
 **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。
17. **完了の準備** ウィンドウで、OVF 展開タスクに選択したオプションを確認し、**展開後に電源を投入** を選択して **完了** をクリックします。展開ジョブが実行され、完了ステータスウィンドウが表示され、ジョブの進捗状況を確認できます。

OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート

1. vSphere Client から **ホーム** → **ホストとクラスタ** を選択し、左ペインで先ほど展開した OMIVV の場所を特定して、電源が入っていない場合は **仮想マシンの電源をオンにする** をクリックします。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの **コンソール** タブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. OMIVV の起動が完了するのを待ち、**admin** のユーザー名を入力し、**Enter** を押します。
4. 新しい管理者パスワードを入力します。パスワードは、表示されているパスワードの複雑性に関するルールに従って設定する必要があります。**Enter** を押します。
5. パスワードの確認ダイアログボックスが表示されます。前の手順で入力したパスワードを入力し、**Enter** を押します。パスワードの確認メッセージが表示されます。
OMIVV アプライアンスで **Enter** を押して、ネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。
6. OMIVV タイムゾーン情報を設定するには、**日付と時刻のプロパティ** をクリックし、タイムゾーンと日付を設定できます。

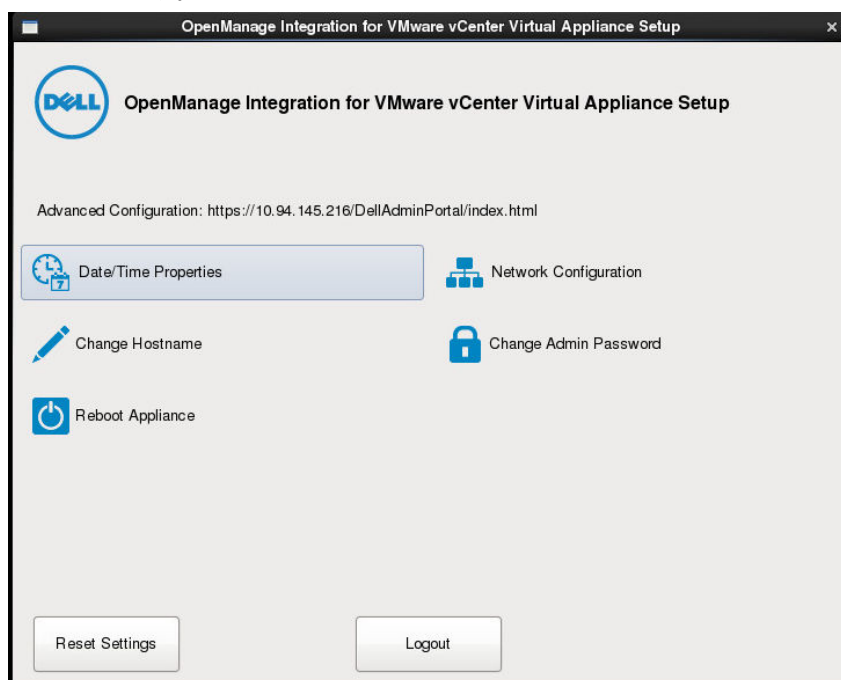


図 1. コンソールタブ

7. **日付と時刻** タブで、**ネットワーク上で日付と時間の同期化** を選択します。
NTP サーバーボックスが表示されます。
8. 有効な NTP サーバーの詳細を、vCenter の同期先に追加します。

9. **タイムゾーン**をクリックして、該当するタイムゾーンを選択し、**OK**をクリックします。
10. OMIVV アプライアンスで静的 IP を設定するには、**ネットワーク設定**をクリックします。または手順 17 に進んでください。
11. **Auto eth0** を選択し、**編集**をクリックします。
12. **IPv4 設定** タブを選択し、**方法** ドロップダウンで **手動** を選択します。
13. **追加** をクリックして、有効な IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ情報を追加します。
14. **DNS サーバー** の詳細を、DNS サーバーフィールドに追加します。
15. **適用** をクリックします。
16. OMIVV アプライアンスのホスト名を変更するには、**ホスト名の変更** をクリックします。
17. 有効なホスト名を入力して **ホスト名のアップデート** をクリックします。
18. ウェブブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名をタイプします。
例えば、**https://10.210.126.120** または **https://myesxihost** となります。URL は大文字と小文字を区別しません。

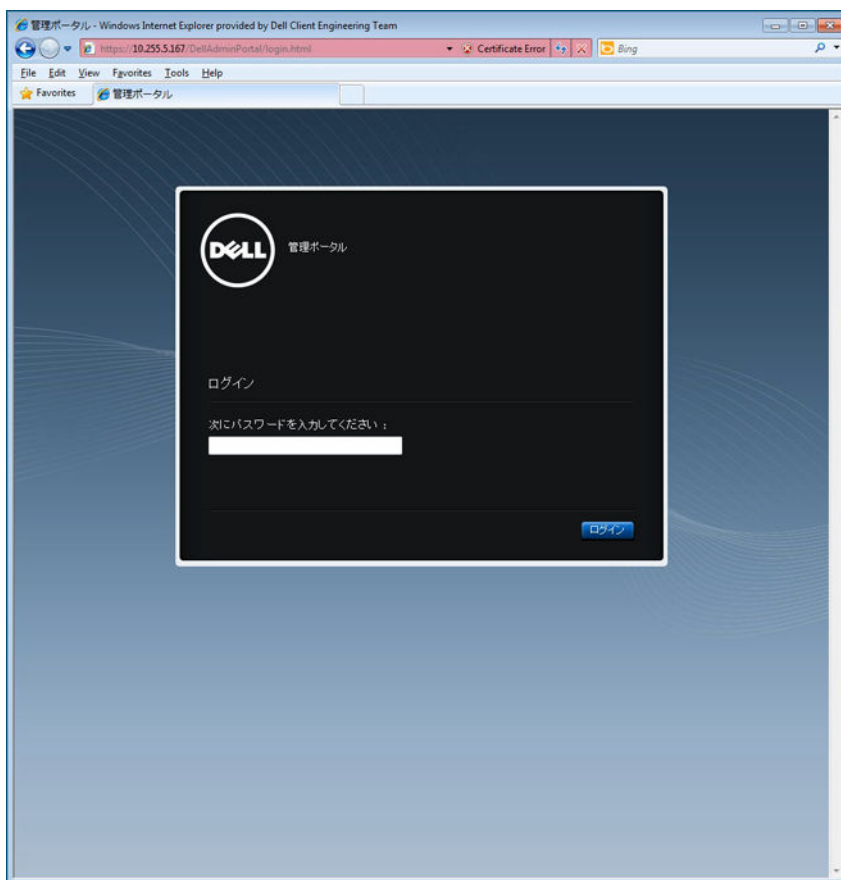


図 2. 管理コンソール

19. **管理コンソール** のログインウィンドウでパスワードを入力し、**ログイン** をクリックします。

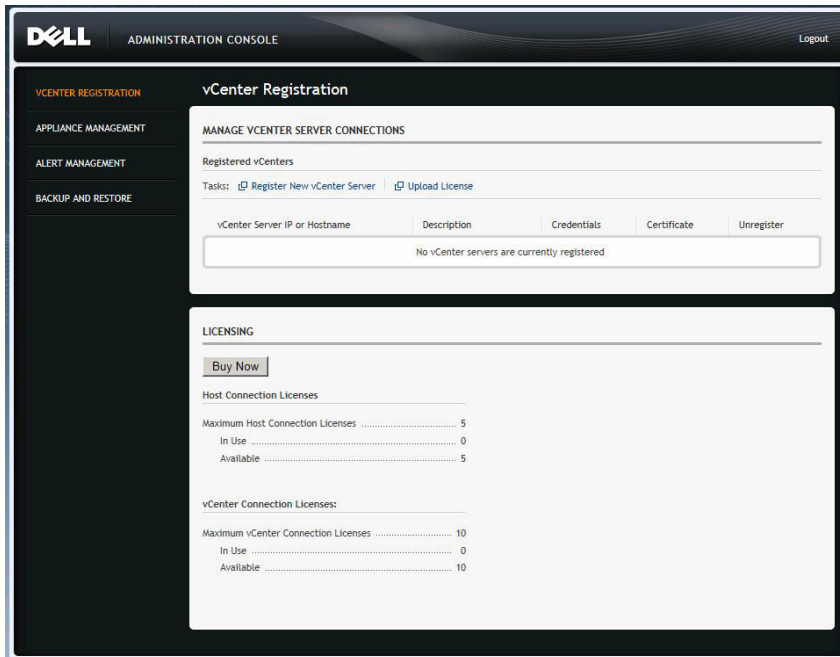


図 3. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

20. vCenter 登録 ウィンドウで、**新規 vCenter サーバーの登録** をクリックします。
21. **新規 vCenter の登録** ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a. **vCenter の名前** で、**vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、**説明** テキストボックスにオプションの説明を入力します。
 - b. **管理者ユーザーアカウント** の **管理者ユーザー名** テキストボックスに、管理者ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントは OMIVV for vCenter 管理によって使用されます。
 - **メモ:** OMIVV の 1 つのインスタンスは、同じ vCenter SSO の一部となっている最大 10 個の vCenter をサポートできます。vCenter の複数独立インスタンスは現在サポートされていません。
 - **メモ:** FQDN を使用した登録は必須ではありませんが、強くお勧めします。IP と FQDN (インターネットプロトコルと完全修飾ドメイン名) の両方ベースの登録では、vCenter のホスト名を DNS サーバーで正しく解決する必要があります。
 - c. **Password** (パスワード) テキストボックスにパスワードを入力します。
 - d. **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
22. **Register** (登録) をクリックします。
23. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
 - OMIVV トライアル版を使用している場合は、手順 12 に進みます。
 - 完全な製品バージョンを使用している場合は、登録した E-メールの添付として送付される **license.xml** ファイルがあります。このファイルには製品ライセンスが含まれ、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、**ライセンスのアップロード** をクリックします。
24. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで **参照** ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。**アップロード** をクリックしてライセンスファイルをインポートします。
 - **メモ:** ライセンスファイルが何らかの方法で変更または編集されている場合、そのライセンスファイルは動作しません。

25. OMIVV が登録されると、vCenter ホームページの **管理** カテゴリの下に **OMIVV** アイコンが表示されます。

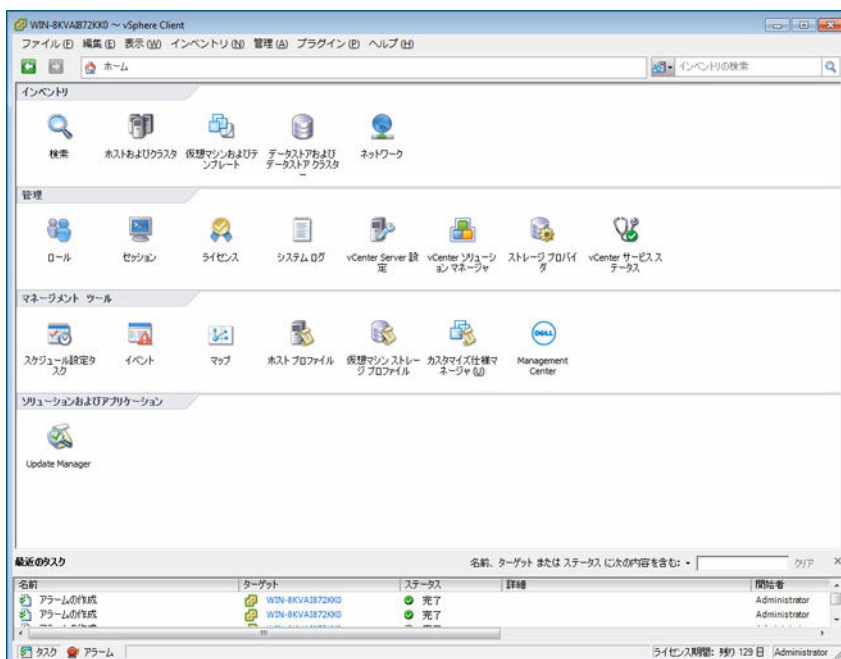


図 4. OMIVV が vCenter に正常に追加されました。

インストールの検証


次の手順で OMIVV のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere クライアントにログオンして、OMIVV のアイコンが vSphere クライアント内部に表示されていることを確認します。表示されていない場合、vSphere Client を再起動して再度確認します。
2. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OMIVV と通信可能であることをチェックします。
3. vSphere Client でプラグイン → 管理対象プラグインをクリックします。プラグインマネージャ ウィンドウで OMIVV がインストール済みで有効化されていることを検証します。

2.x から 3.0 への移行のための移行パス

旧バージョンから OMIVV 3.0 バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前のリリースのデータベースのバックアップを行います。
2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。

 **メモ:** vCenter からプラグインの登録を解除しないでください。vCenter からのプラグインの登録解除により、そのプラグインによって vCenter に登録されているアラーム設定がすべて削除され、vCenter でアクションなどのアラームで実行したカスタマイズはすべて削除されます。詳細に関しては、バックアップ後にプラグインをすでに登録解除している場合は、本ガイドの「[旧バージョンのプラグインが登録解除されている場合の OpenManage Integration for VMware vCenter の復元](#)」を参照してください。

3. 新規 OpenManage Integration バージョン 3.0 OVF を展開します。OVF の展開の詳細に関しては、本ガイドの「[vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)」を参照してください。

4. OpenManage Integration バージョン 3.0 アプライアンスに電源を入れます。
5. アプライアンスでネットワーク、タイムゾーンなどをセットアップします。新規 OpenManage Integration バージョン 3.0 アプライアンスの IP アドレスは旧アプライアンスと同じである必要があります。ネットワーク詳細をセットアップするには、このガイドの「[vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)」を参照してください。

 **メモ:**

3.0 アプライアンスの IP アドレスが、旧アプライアンスのものと同じでない場合、プラグインが正常に動作しない可能性があります。この場合、すべての vCenter インスタンスの登録を解除して、再度登録してください。

6. 新しいアプライアンスにデータベースを復元します。
7. アプライアンスを検証します。データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「[インストールの検証](#)」を参照してください。
8. 登録された vCenter すべてでインベントリを実行します。

 **メモ:**

プラグインで管理されているすべてのホスト上で、アップグレード後に再度インベントリを実行することをお勧めします。オンデマンドでインベントリを実行する手順の詳細に関しては、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）(dell.com/support/manuals) で「[インベントリジョブの実行](#)」を参照してください。


新しい OpenManage Integration バージョン 3.0 アプライアンスの IP アドレスを、旧アプライアンスのものから変更した場合、SNMP トラップの送信先を新規アプライアンスに設定する必要があります。第 12 世代以降のサーバーでは、これらのホストのインベントリを実行することで解決されます。旧式の第 12 世代以前のホストでは、この IP 変更は非対応として表示され、OMSA の設定が必要になります。

OpenManage Ingetration Plug-In の 2.x バージョンから現在のバージョンへのアップグレード

RPM Upgrade は、以前のバージョンから最新バージョンへのアップグレードはできません。

旧バージョンのプラグインが登録解除されている場合の OpenManage Integration for VMware vCenter の復元

旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。

 **メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録済みアラームに実装されたカスタマイズのすべてが削除されています。次の手順では、カスタマイズを復元することはできませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 「[2.x から 3.0 への移行のための移行パス](#)」の手順 3~5 を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同一 vCenter にプラグインを登録します。
3. 「[2.x から 3.0 への移行のための移行パス](#)」の手順 6~8 を実行して移行を完了します。

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定

OMIVV は、基本的なインストール後、設定する必要があります。これは通常設定ウィザードを使用して行いますが、Dell Management Center の設定ページオプションを使って行うこともできます。

両方のペイン内のユーザーインターフェースは似通っていますが、ウィザードでは **保存して続行** をクリックするのに対し、**設定** オプションでは **適用** をクリックします。

本項では、ウィザードを使用した設定について説明します。Dell Management Center の **設定** オプションを使用して OMIVV 設定する詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。



設定ウィザードようこそページ

OMIVV をインストールした後は、設定する必要があります。

1. **vSphere** クライアントの **ホーム** ページで、**管理** タブの下の **Dell Management Center** アイコンをクリックします。
初めて **Dell Management Center** アイコンを実行する場合、**設定ウィザード** が開きます。このウィザードには、**Dell Management Center** → **設定** ページでアクセスすることもできます。
2. **ようこそ** タブで手順を確認し、**次へ** をクリックします。

新規接続プロファイルの作成ウィザード

接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するために使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーを、OMIVV で管理する接続プロファイルに関連付ける必要があります。設定ウィザードと Dell Management Center での接続プロファイルの作成方法は似ており、**設定** オプションで設定します。Active Directory の資格情報を使用して、iDRAC とホストに接続するよう OMIVV を接続します。接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用する前に、Active Directory のユーザーアカウントが Active Directory と iDRAC Active Directory に存在している必要があり、ベースの認証のためのホストを構成する必要があります。Active Directory 資格情報を iDRAC とホストの両方で同一に設定することもできます。ユーザー資格情報に管理者権限を持たせる必要があります。


-  **メモ:** Dell PowerEdge サーバーの第 12 世代以降を使用したホストでのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントは導入プロセス中に自動的にインストールされます。
-  **メモ:** 追加されたホストの数が接続プロファイルの作成に対するライセンス制限を超過する場合は、接続プロファイルを作成できません。

ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイル** タブで、**新規作成** をクリックします。
2. **プロファイル名と説明** パネルでカスタム接続プロファイルを管理しやすくするために使われる **プロファイル名** と説明を入力し、**次へ** をクリックします。
3. **関連ホスト** セクションでは、接続プロファイルに関連付けるホストを選択し、**次へ** をクリックします。
4. 資格情報と接続プロトコルの情報を表示し、**次へ** をクリックします。
5. iDRAC パネルで、iDRAC 資格情報を入力します。
 - a. iDRAC が設定済みで、**Active Directory** を使用する **Active Directory** で有効になっている場合、**Active Directory** を使用する チェックボックスを選択します。それ以外の場合は、iDRAC のローカルの資格情報（**ユーザー名**、**パスワード** および **パスワードの確認**）を入力します。ユーザー名にはスペースを含めて 16 文字を使用できます。パスワードは一致する必要があり、印刷可能な ASCII 文字のみを入力します。
 - b. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に iDRAC 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
6. **次へ** をクリックします。
7. **ホストルートの資格情報** パネルでは、以下を行います。
 - a. **Active Directory** 資格情報を有効にするには、**Active Directory** を使用する チェックボックスを選択する必要があります。ユーザー名、パスワード、およびパスワードの確認を入力します。
 - b. **Active Directory** を使用 が選択されていない場合は、**root** ユーザーの **パスワード** を入力して、**パスワードを確認** します。両パスワードは一致する必要があります。
 - c. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に **OMSA/ESXi** 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
8. **次へ** をクリックします。
9. **接続性のテスト** ウィンドウで入力した iDRAC とホストの **root** 資格情報をテストします。接続のテストはオプションですが、実施されることをお勧めします。
 - テストを開始するには、ホストを選択して **選択内容をテスト** をクリックします。その他のオプションは無効になっています。
 - すべてのテストが完了する前に中止するには、**すべてのテストを中止** をクリックします。
10. プロファイルを完了するには、**保存** をクリックします。
11. イベントとアラームの設定を続けるには、**保存して続行** をクリックします。

イベントおよびアラームの設定ウィザード


設定ウィザードまたは Dell Management Center のイベントとアラームの設定オプションから、イベントおよびアラームを設定します。サーバーからのイベントの受信には、**OMIVV** をトラップ送信先として設定します。第 12 世代およびそれ以降のホストでは、**SNMP** トラップ送信先を **iDRAC** で設定します。第 12 世代より前のホストでは、**OMSA** でトラップの生成が設定されています。


 **メモ:** **OMIVV** は第 12 世代以降のホストで **SNMP v1** および **v2** をサポートしています。ホストを追加することができます。後で、第 12 世代第 12 世代より前のホストでは、**OMIVV** は **SNMP v1** アラームをサポートしています。

イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。


1. **設定ウィザード** の **イベント掲載レベル** で、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
 - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
 - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。

- 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
- すべてのハードウェアアラームを有効にするには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
 - 表示されるダイアログボックスで **続行** をクリックしてこの変更を確定するか、または **キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
 - すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、**デフォルトのアラームの復元** をクリックします。

変更が有効になるには、最大1分間かかることがあります。
 - ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

 **メモ:** OMIVV アプライアンスのバックアップを復元しても、すべてのアラームの設定を復元することはできません。ただし、GUI OMIVV には、**アラームおよびイベント** フィールドに復元された設定が表示されます。この問題を解決するには、GUI OMIVV の **管理** → **設定** タブで、イベントおよびアラームの設定を手動で変更します。


プロキシサーバーの設定ウィザード

プロキシサーバーは、設定ウィザードで、または後ほど Dell Management Center の **設定** → **プロキシ** ページを使用して設定します。プロキシサーバーを設定するには、以下を行います。

- HTTP プロキシの設定ウィンドウ** で以下のいずれかを行います。
 - プロキシサーバーを使用しない場合は、**保存して続行** をクリックします。
 - プロキシサーバーを使用する場合は、**設定** で **プロキシサーバーのアドレス** を入力します。
- プロキシポート番号** を入力します。
- 必要に応じて、**資格情報が必須です** チェックボックスを選択します。
- 資格情報が必須です** を選択した場合は、以下を行います。
 - プロキシユーザー名** テキストボックスにプロキシユーザー名を入力します。
 - プロキシパスワード** テキストボックスにプロキシパスワードを入力します。
 - パスワードの確認** テキストボックスにプロキシパスワードを再入力します。
- プロキシでプロキシを使用する** チェックボックスを選択します。
- これらのオプションを保存して継続するには **保存して続行** をクリックします。

インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードからの実行も、**Dell Management Center** → **設定** オプションからの実行も、ほぼ同じです。唯一の違いは、ウィザードではインベントリを直ちに実行する場合に選択するオプションが提供されることです。

-  **メモ:** OMIVV が常に最新の情報を表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小のリソースで実行でき、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
 - インベントリスケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - インベントリスケジュールを実行しない場合は、**Dell ホストではインベントリを実行しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. インベントリを実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を **HH:MM** フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブの設定は、ウィザードから行う場合と、**Dell Management Center** → **設定** オプションから行う場合もほぼおなじです。また、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することができます。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証のスケジュール** ウィンドウで、以下のいずれかを行います。
 - 保証スケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - 保証スケジュールを実行しないようにするには、**保証情報を取得しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. 保証ジョブを実行したい各曜日の横にあるテキストボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を **HH:MM** フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。



メモ: OMIVV がインターネットに接続してホストの保証情報を取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、保証ジョブを正常に実行するためにプロキシの設定が必要な場合があります。

展開資格情報の設定ウィザード

展開資格情報は、自動検出で検出されるベアメタルシステムと安全に通信するために使用します。iDRAC とセキュリティで保護された通信を行うために、OMIVV は初期展開用の資格情報を使用して展開プロセスの最後まで検索します。展開プロセスが完了すると、資格情報は導入時に関連付けられている接続プロファイルに変更されます。展開資格情報が変更されると、これ以降に新しく検出されたシステムはすべて、新しい認証情報でプロビジョニングされます。ただし、変更前に検出されたサーバー上の資格情報には該当しません。



メモ: OMIVV は、プロビジョニングサーバーとして機能します。展開資格情報は、自動検出プロセスでプラグインをプロビジョニングサーバーとして使用する iDRAC と通信するために使用されます。

展開資格情報の設定には、以下を行います。



1. **展開資格情報** ウィンドウで、資格情報を表示または変更できます。
2. これらの資格情報を変更するには、**ベアメタルサーバー展開用の資格情報** 下で以下を行います。

- a. ユーザー名 テキストボックスでユーザー名を編集します。
 - b. パスワード テキストボックスでパスワードを編集します。
 - c. パスワードの**確認** テキストボックスでパスワードを確認します。
3. 特定した資格情報を保存して設定ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定 ウィザード

ファームウェアリポジトリ設定には、展開済みサーバーのアップデートに使用されるファームウェアカタログの場所が含まれます。ファームウェアリポジトリの設定は最初にこのウィザードで設定するか、後で **Dell Management Center** の設定オプションで設定できます。さらに、ファームウェアアップデートも後で **OpenManage Integration** タブから実行できます。


デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのファームウェアリポジトリ** で、ファームウェアアップデートのためにデフォルトリポジトリを選択するには、以下のいずれか1つを選択します。
 - **Dell Online**
ステージングフォルダのある、デフォルトのファームウェアリポジトリ ([ftp.dell.com](ftp://ftp.dell.com)) です。OMIVV は選択されたファームウェアのアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存して、必要に応じて適用します。
 **メモ:** OMIVV がインターネットに接続してホストに適用可能なカタログおよびファームウェアパッケージを取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、ファームウェアのアップデートタスクを **Dell** からオンラインで正常に実行するために、プロキシを設定する必要がある場合があります。
 - **ローカル/共有リポジトリ**
これらは **Dell Repository Manager** アプリケーションを使って作成されます。このローカルリポジトリはネットワーク共有である必要があります。OMIVV は NFS と CIFS 共有の両方をサポートしています。
2. **ローカル/共有リポジトリ** を選択した場合、以下を行います。
 - a. 次のフォーマットを使って、**カタログファイルの場所** を入力します。
 - xml ファイル用の NFS 共有: `host/share/filename.xml`
 - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`
 - xml ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.xml`
 - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`
 - b. CIFS 共有を使用する場合、**ユーザー名**、**パスワード**、**パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。これらの欄は CIFS 共有を入力する場合にのみアクティブになります。
 **メモ:** 共有ネットワークフォルダのユーザー名/パスワードには、@ 文字は使用できません。
 - c. 入力情報を確認するには、**テストの開始** をクリックします。
3. この選択を保存して **設定ウィザード** を継続するには、**保存して続行** をクリックします。

OMSA リンクの有効化ウィザード

OMIVV 仮想アプライアンスで OMSA を起動するには、OMSA Web Server (OMSA ウェブサーバー) のインストールと設定が必要です。ウェブサーバーのインストールおよび設定の手順に関しては、『*Dell OpenManage*

『*Server Administrator Installation Guide*』（Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド）を参照してください。


 **メモ:** OMSA は、第 12 世代のバージョンより前の Dell サーバーでのみ必要になります。


OMSA を使用して、以下を行うことができます。

- vCenter エレメント（詳細センサ/コンポーネントレベルの正常性情報）の管理。
 - コマンドログおよびシステムイベントログ（SEL）の消去。
 - NIC 統計情報の取得。
 - OMIVV が選択したホストからのイベントをキャプチャしていることを確認します。
1. 設定ウィザードの **OpenManage Server Admin** ページで **OMSA Web Server** の URL テキストボックスを使って OMSA URL を入力します。HTTPS を含む完全な URL を入力する必要があります。
 2. この URL を保存して設定ウィザードを終了するには、**終了** をクリックします。

Dell iDRAC Auto-Discovery の設定

デルのサーバーを購入し、プロビジョニングサーバーの IP アドレスを提供すると、自動検出機能をサーバーで有効にするよう求められます。プロビジョニングサーバーの IP アドレスは OMIVV の IP アドレスです。この場合は、Dell からサーバーを受け取った後に iDRAC をマウントして接続した後に電源をオンにすると、サーバーは自動検出されます。サーバーは、展開ウィザードの最初のページに一覧表示されます。

 **メモ:** 自動検出されたサーバーについては、OS の展開が完了するまでの間のサーバーとの通信に **Dell Management Center** → **設定** → **展開用資格情報** で提供される資格情報を使用します。OS の展開が正しく完了したら、関連する接続プロファイルで提供される iDRAC 資格情報が設定されます。

 **メモ:** サーバーホワイトリストが無効になっているか、自動検出されるべきサーバーのサービスタグが、**Dell Management Center** → **設定** → **セキュリティ** の下の **サーバーホワイトリスト** に追加されているかを確認します。

手動で自動検出オプションを有効にするには、ターゲットマシン上で次の手順を実行します。

1. 初回起動時にターゲットシステムを起動または再起動し、F2 キーを押してセットアップユーティリティに移動する
2. **iDRAC 設定** → **ユーザー設定** に移動して、root ユーザーを無効にする。root ユーザーを無効にするときに、他のユーザーが使用していないことを確認します。この iDRAC にアクティブな管理者権限を持つユーザーがいてはなりません。
3. **戻る** をクリックしてから **Remote Enablement** をクリックします。
4. **自動検出を有効にする** を **有効** に設定し、**プロビジョニングサーバー** を OMIVV の IP アドレスとして設定します。
5. 設定を保存します。
6. 次回のサーバー起動時にサーバーが自動検出されます。自動検出が正常に完了した後、root ユーザーが有効になり、**自動検出を有効にする** フラグは自動的に無効になります。

NFS 共有の設定

Dell OMIVV でバックアップと復元作業、ファームウェアアップデート、および作業フォルダとして NFS 共有を使用するには、一定の設定項目の実行が必要です。CIFS 共有には追加設定は必要ありません。

NFS 共有の設定には、以下を行います。

1. NFS 共有をホストしている Linux または Unix OS マシンで、`/etc/exports` を編集して `/share/path <アプライアンス IP> (rw) *(ro)` を追加します。

これにより、仮想アプライアンスは完全に共有の読み書きができるようになりますが、他のユーザーは読み取り専用となります。

2. nfs サービスの開始：

```
service portmap start service nfs start service nfslock status
```




メモ: 上記の手順は、使用している Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。

3. すでにいずれかのサービスが実行されている場合は、以下を行います。

```
exportfs -ra
```

Licensing in OpenManage Integration for VMware vCenter

This chapter provides details about licensing in OMIVV. There are no new licensing changes for 3.0.

 **メモ:** The Licensing for OMIVV will not alter the number of vCenter connection licenses. The maximum number of vCenter licenses is 10. If you want to register multiple vCenters, all vCenters should be part of same SSO. Separate instances of vCenters are not supported in this OMIVV release.

License Types

With version 3.0 there are two types of licenses. An evaluation license, and a standard license. These licenses restrict functionality based on time, and the number of Dell 11th Generation or newer hosts.

Evaluation License

When the OMIVV version 3.x appliance is powered on for the first time, an evaluation license is automatically installed. This evaluation license will allow the OMIVV to operate and manage five ESXi 11th Generation and newer hosts without blocking any functionality for the 90 day evaluation period from the first power on. Once a standard license is uploaded, the evaluation license is no longer used.

Standard License

A standard license is purchased from Dell. Different purchase SKU's are used when ordering the license based on the number of Dell 11th Generation or newer servers running VMware ESXi to be managed, and the duration of product support. The license includes product support and appliance updates for a periods of either 3 or 5 years.

アップロード済みライセンスに関する情報の表示

ライセンスに関する情報を表示する複数の方法があります。ライセンスは、**Dell Administration Console** でライセンスのアップロードリンクを使用した場合のみ、アップロードできます。特定のライセンスについての情報は、3.0 リリースでは使用できません。

- **Dell Administration Console :**
使用中および消費されたライセンスの情報を、**Dell Administration Console** の vCenter 登録ページで見ることができます。
- **Dell Management Console :**
ライセンスに関する情報を統合で見ることができます。ライセンス情報については、**Dell Management** コンソールの「概要」ページから、またはクライアントを使用する場合は、**OMIVV** ライセンス タブから見ることができます。

- **ライセンスのメッセージ：**
情報、エラー、または警告メッセージを表示できます。
 - a. **ライセンスの有効期限がもうすぐ切れます：**
ライセンスの有効期間の残存日数を通知する、ライセンスの有効期限が **30** 日以内に切れるというメッセージが表示されます。
 - b. **ライセンスの有効期限が切れて猶予期間内です：**
ライセンスの期限が切れると、**90** 日間の猶予期間に入ります。
 - c. **すべてのライセンスの有効期限が切れています：**
すべてのライセンスの有効期限が切れた場合は、メッセージが表示されます。さらに、評価ライセンスを使用している場合は標準ライセンスへのアップグレードができない、使用できない機能がある、などのライセンス強制があります。
 - d. **ホストライセンス数を超過しています：**
接続プロファイルを作成または編集しようとする場合は、接続プロファイルに追加する新規サーバーで使用可能なライセンスの数を、ホストのライセンス数が超過している場合、エラーメッセージが表示されることがあります。このメッセージを受信した後で、新しいホストの追加に成功するには、少なくとも1つの有効なライセンスが存在することを確認して、接続プロファイルに一度に追加するサーバー数を少なくすることで、次にサーバーを追加する前に新規追加したサーバーでインベントリが完了するようにします。

Uploading License

When a license is purchased, an e-mail will be sent to you containing the license file. The license is to be uploaded from the web administration console, accessible by using the ip address of the appliance.

1. Licenses are uploaded using the Upload License link on the VCenter Registration Page.
2. After clicking the Upload License link, the Upload License dialog box will appear.
3. Browse to the license XML file and click Upload.



メモ: The license file may come to you packaged inside a zip file. Be sure to unzip the zip file and upload only the license .xml file. The license file will likely be named based on your order number (i.e 123456789.xml)

4. The Upload License file should display a success message if the license upload was successful.

Options After Uploading Licenses

License file for new purchases

When purchasing a new license, an e-mail will be sent from Dell containing the new license file. The license should arrive in an .xml format. If the license is in a zip format, extract the license xml file from the zip file before uploading.

Stacking licenses

Starting from OMIVV version 2.1, OMIVV has the ability to stack multiple standard licenses to increase the number of supported hosts to the sum of the hosts in the uploaded licenses. An evaluation license cannot be stacked. The number of supported vCenters cannot be increased by stacking, and would require the use of a multiple appliances.

There are some restrictions around the functionality of stacking licenses. If a new standard license is upload before the existing standard license is expired, the licenses will stack. Otherwise, if the license is expired and a new license is uploaded, only the number of hosts from the new license will be supported. If there are already multiple licenses

uploaded, the number of supported hosts will be the sum of the hosts in the non-expired licenses at the time the last license was uploaded.

Expired Licenses

Licenses that are past their support duration, typically three or five years from date of purchase, are blocked from being uploaded. If a license has expired after being uploaded, functionality for existing hosts will continue, however upgrades to new versions of the OMIVV are blocked.

Replacement of Licenses

Should there be a problem with your order and you receive a replacement license from Dell, the replacement license will contain the same entitlement ID of the previous license. When uploading a replacement license, if a license was already uploaded with the same entitlement ID it will be replaced.

Enforcement

Appliance Updates

The appliance will not allow updates to newer versions when all licenses are expired. Please obtain and upload a new license prior to attempting to upgrade the appliance.

Evaluation Licenses

When an evaluation license expires, several key areas will cease to work, and display an error message.

Adding Hosts to Connection Profiles

When attempting to add a host to a connection profile, if the number of licensed 11th Generation or newer hosts is exceeded and beyond the license number, adding additional hosts is prevented.

その他の構成情報

OMIVV の設定、管理、および展開オプションの完全ガイドについては、Dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。